

学習指導要領	田園調布高校 学カスタンダード
(1) 自らの体験や悩みを振り返ることを通して、青年期の意義と課題を理解させ、豊かな自己形成に向けて、他者と共に生きる自己の生き方について考えさせるとともに、自己の生き方が現代の倫理的課題と結び付いていることをとらえさせる。 (2) 自己の生きる課題とのかかわりにおいて、先哲の基本的な考え方を手掛かりとして、人間の存在や価値について思索を深めさせる。 ア 人間としての自覚 人生における哲学、宗教、芸術のもつ意義などについて理解させ、人間の存在や価値にかかわる基本的な課題について思索させることを通して、人間としての在り方生き方について考えを深めさせる。	・第二の誕生、周辺人、モラトリアム、アイデンティティの確立といった概念を通して、青年期の意義と課題について理解する。 ・青年期における自我のめざめについて理解し、自分自身の心理についての考察を深め、自らの心を守る防衛機制の働きについて理解する。 ・青年期にアイデンティティを確立するには、自分らしい生き方を求める個性化と、集団や社会に適応する社会化とを調和させることが重要であることを理解する。 ・他者と共に生きる自己の生き方について、友人や家族など身近な人間関係だけでなく、他の国々の人々とのつながりなどの広い視野に立って考察することが重要であることを理解する。 ・グローバル化の進展を背景とした、日本人としてのアイデンティティの問題などをおして、自己の生き方にかかわる課題が現代の倫理的課題と結び付いていることを理解する。 ・哲学はより良く生きることを、宗教は人間存在を超えた崇高なものを、芸術は美をそれぞれ希求することで、「人間としての自覚」を深める精神の営みとなることを理解する。 ・古代ギリシアの代表的先哲とその思想について理解し、ソクラテスが「ただ生きるのではなく、よく生きる」ことを説き、「魂を善くする」生き方を主張したことなどを知る。 ・啓示宗教の特徴について理解するとともに、民族宗教としてのユダヤ教の特徴やその歴史的展開について知る。 ・イエスの言行について理解を深めるとともに、イエスの死後、パウロらの伝道によってキリスト教が世界宗教として広がる基礎が築かれたことを理解する。

学習指導要領	田園調布高校 学力スタンダード
イ 国際社会に生きる日本人としての自覚 日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について、我が国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら、自己とのかかわりにおいて理解させ、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について自覚を深めさせる。	る。 ・ 仏陀の説いた「四苦」、「八苦」、「煩惱」などの諸概念と、それらを克服し、涅槃に至る方法としての「八正道」について理解する。 ・ 孔子の教えについて理解するとともに、孟子の「性善説」と荀子の「性悪説」との比較等を通じて、両者の人間についての見方や考え方の相違について説明できる。 ・ 古代日本人が多神教的な宗教観をもち、自然のように清らかな、神に対していつわることのない純粋な心（清明心）を尊んでいたことを理解する。 ・ 和辻哲郎が唱えた「風土」の考え方を基に、モンスーン型の風土に生きる日本人の自然に対する受容的、忍従的な性格について理解する。 ・ 平安仏教における最澄と空海の思想の相違や、鎌倉新仏教における自力と他力の信仰の相違などに着目して、我が国で独自に発展した仏教の各宗派の特徴的な考え方を理解する。 ・ 江戸の官学としての朱子学の考え方を理解するとともに、それに対する陽明学や古学、古文辞学による批判を踏まえて、我が国で独自に発展した儒学の特徴について理解する。 ・ 我が国における国学の発展について、賀茂真淵による万葉集の研究や本居宣長による古事記の研究を中心に、「もののあはれ」や「真心」を重視した人間の在り方生き方について理解する。 ・ 我が国における近代化の特徴について、西洋文化の受容という観点から、「和魂洋才」の発想や、福沢諭吉の「実学」、内村鑑三の「二つの J」などの考え方について理解する。 ・ 人間が自らの自由意思で自己を形成したり、自己の内面における信仰に忠実に生きることによって人間の尊厳の根拠があることについて、ルネサンス期の思想家や宗教改革の指導者らの言説を通じて理解する。 ・ 自然や科学技術と人間とのかかわりについて、F.

学習指導要領	田園調布高校 学力スタンダード
(3) 現代に生きる人間の倫理的課題について思索を深めさせ、自己の生き方の確立を促すとともに、よりよい国家・社会を形成し、国際社会に主体的に貢献しようとする人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる。 ア 現代に生きる人間の倫理 人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間とのかかわり、民主社会における人間の在り方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福などについて、倫理的な見方や考え方を身に付けさせ、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題として考えを深めさせる。 イ 現代の諸課題と倫理 生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉などにおける倫理的課題を自己の課題とつなげて探究する活動を通して、論理的思考力や表現力を身に付けさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる。	ベーコンとデカルトの考え方を対比して理解するとともに、近代科学を導いた西洋的な自然観や合理的精神について理解する。 ・ホッブズ、ロック、ルソーの三つの社会契約説について、国家（政府）の成り立ちや個人の権利についての考え方の相違に着目し、社会と個人のかかわりに焦点を当てて理解する。 ・ベンサムやJ.S.ミルが功利主義の考え方を提唱し、「最大多数の最大幸福」を追求することで市民社会の諸矛盾を解決しようとしたことを理解する。 ・自己の生き方を自ら選択し決断する、主体的な人間の在り方について説いたキルケゴールやニーチェなどの考え方を理解する。 ・生殖技術や出生前診断、生命維持治療など、医療技術の進歩によって生じる新たな課題を多面的に捉え、従来の生命観のみでは対処できない問題が生じていることを理解する。 ・地球環境問題を考察するための土台として、地球の有限性、世代間倫理、自然の生存権の3点を重視した環境倫理の考え方を理解する。 ・少子高齢化が急速に進展する中で、子育てや介護の問題が、家族や地域社会を越えて、国の重要な政策的課題になっていることを理解する。